

中国工場を移転拡張

ハイテムが12億円投資

自動養鶏設備メーカーのハイテム（各務原市テクノプラザ）は、中国天津市の天津工場を移転拡張し、来年8月に稼働を始める。工場周辺が都市計画で商業地域に指定されたことを受け、北に約10㌾離れた同市内に工場を移す。敷地面積は現在の5倍、延べ床面積は2・5倍に広げ、生産体制を強化する。投資額は約12億円。

（松浦健司）



ハイテムの新工場のイメージ図

来夏稼働 自動養鶏設備の生産強化

天津工場は自社工場として2009年に本格稼働し、唯一の生産拠点となっている。中国の人工費は17年間で約2倍に上がったが、日本に比べればまだ安く、若い人材を確保しやすいことに加えて、部品の供給網が確立されていることから、中国国内の近場に移転することを決めた。

新工場は約2万平方㌾の敷地に、平屋の工場と2階建ての事務所を計画する。延べ床面積は約1万平方㌾。アルミ亜鉛ワイヤのケージ生産や、給餌、集卵、集ふんなどの機械の組み立ては従来通り行う。協力工場に委託している鋼板加工は、自動化する機械を導入して委託の約半分を内製化し、生産コストの削減につなげる。

屋根には太陽光パネルを設置し、ケージの溶接などを使う工場電力の大半を賄

うことで、環境への配慮と電気代の削減を図る。緑地や食堂も備え、働きやすい環境を整える。

工場では現地の中国人約50人が働く。各務原市の本社では研究開発や製造図面、品質管理、アフターサービスを担っており、新工場稼働後も本社と工場の役割分担は変わらない。

同社は日本国内で約6割のシェアを握る。世界人口の6割を占めるアジア市場への販売を強化しており、人工費の上昇に伴って養鶏場の自動化設備の導入が進む韓国、台湾を重点に置く。同社の2025年9月期の売上高は61億円。安田勝彦社長は「輸出はまだ売り上げの十数％だが、将来的には半分まで持っていきたい」と話す。

岐阜新聞

2026年（令和8年）7月8日水曜日